



## 第2回

# 自分に合った仕事って何？～点と線～

皆さんこんにちは。“小牧でより質の高い就活ができるように”という目的でコラムを始めることになりました、キャリアコンサルタントの長谷川といいます。

——前段——

前回のコラムでは、労働条件に限らず自分の能力が活かせる場所を探す重要性をお伝えしました。今回のコラムでは、自分に合った仕事の探し方をお伝えしたいと思います。

自分に合った仕事、というのは4つの観点から捉えるのが良いでしょう。

①得意なこと、②好きなこと、③お金になること、④社会的に必要とされること

今回は最も大事な「①得意なこと」についてお伝えします。

——得意なこと——

そもそも得意なことってどんなことでしょうか？

才能・特技・知識・入賞歴・資格・…色々な表現方法があります。決して万人が同じ意見ではないはず。ではどう考えるかという、得意なこととは「**周りの人より上手にできること**」です。なぜそうなのか、少し紐解いていきます。

——個性——

まず我々が自分を考える上で受け入れなくてはいけないのは、「生きている人それぞれ」が生まれ持った身体も心も人それぞれ同じではない、つまり**平等ではない**という点です。これは言い換えれば**個性**と表現できます。

個性というのは千差万別です。運動はだめだけど勉強は！など、ある方面に秀でていなくても他方面に能力を発揮できていればよいのですが、やることなすことうまくできない、などというケースも見て取れるのが現実です。あなたの周りにもいませんでしたか？何をやってもいまいちうまくできない人。

「努力をすれば成功する」という考え方は否定されません。確かに努力は成功の大きな要因だからです。しかし努力をしてもなお、才能という壁に阻まれるというのも事実なのです。誰もが努力をしてアインシュタインやタイガーウッズのようになれるか、と問われればそれは困難だろうと感じます。

惜しいことに、現実にはゲームのように能力値の総量が決まっていてそれを振り分けているわけではないからです。細胞一つ、感性一つがそれぞれ違うから当然です。痩せやすい・太りやすい体質があるように…才能の有無というのは当たり前のことなのです。受け入れなければならない前提なのです。だからこそ、**生まれ持った与えられたものをどう活かすか**、ということが重要なのです。

与えられたもの=才能は目に見えるものではありません。数値化もされていません。周囲との比較で浮き彫りになるものです。勉学においてもスポーツにおいても、突出した才能を除いては他者との比較で語られることがほとんどです。この比較、という行為がとても重要になります。

我々は一人で生きているわけではありません。周囲の人々との社会の中で暮らしています。得意なことは役に立てこそ価値が認められます。その中であなたが持っている「比較的得意とすること」はどのように活用されるのでしょうか？

例えば100人の村があったとして、あなたがその村で一番上手なことであなたは役に立てるのでしょうか？当然役に立てますよね。では10番目に上手なら？20番目なら？目立ちはしませんが、これもまた

他の90人や80人より上手にできるならあてにされ、役に立てるはずです。つまり比較的に考えると**役に立つことにおいて1番である**ということは**絶対条件ではない**ということが見えてきます。

———点と線———

さて長くなりましたが、振り返ってあなたが得意なことを見つけるということはどういうことか。それは、**周りの人より少しでも上手にできることを探す**ことなのです。

あなたが小さかった時から今までのことを思い出してみてください。

ご家族に何を誉められましたか？運動会でうまくできた種目は何ですか？先生には何を誉められましたか？通知表には何を書かれましたか？友人に「上手だね」といわれたことは何ですか？やっていて高揚する作業は何ですか？友人との付き合いの中で自分から進んでやる役回りは何ですか？少しアプローチを変えた質問もしてみます。

例えば原始の村にあなたがいたとして、あなたは狩りに出ますか？あるいは畑で農作業をしますか？はたまた村で設備を整えますか？指示する立場に回りますか？作業をしていた方が気楽ですか？

自分で得意であると思っていることは自信をもって誇りましょう。そうでないことも、過去を振り返り、「そういえば自分の能力を誉められていた」と感じたのであれば、あなたの得意なことである可能性があります。あるいはあなたが原始の村でやろうとすることは、無意識にあなたが得意とすることかもしれません。**記憶と空想をたどりながら細部まで精緻に自分を振り返る**ことで、他の人のより上手なことが見えてきます。そしてそれはあなたが就職活動をする上での武器になるのです。なぜなら、会社に入ろうとする競合達の中でも、あなたの方が優れている可能性の高い分野だからです。

**過去から今まであなたが行ったことはすべてあなたの能力の試金石**です。その時役に立つと思もしなかった点が、今のあなたにも息づいている可能性があります。振り返るとその点たちが自分に向かって線になっている。その点を見過ごさず、見つけることがあなたの得意なことを探すことです。

少し難しいですね。でもやってみる価値のあることです。もし第三者の観点が必要であれば親しい人に聞いてみたり、あるいは私のようなコンサルタントの方に話を聞いてもらうのも良いでしょう。

最後に私の好きな言葉を。

『人は誰でも、人生が自分に配ったカードを受け入れなくてはならない。そして一旦カードを手にしたのなら、それをどのように使ってゲームに勝つか、各自が自分で決めねばならない』ヴォルテール

(公開日:2021.6.14)

---

執筆者：(株)QuaLim 代表取締役 長谷川 卓也

#### 経歴・専門

1983年生まれの小牧市育ち。南山大学法学部卒。国家キャリアコンサルタント。車載機器メーカーでの海外営業勤務を経て、2019年より(株)QuaLim代表取締役。化粧品小売経営と職業紹介事業を行う。経営者との兼任は珍しく、業界団体唯一の認定キャリアコンサルタント兼経営コンサルタント。

大学卒業を前に「やりたい仕事」がわからず留年。苦い経験を振り返り「自分の適性を見極めて適切な仕事を教えてくれる人」がいたら良かったのに、と思ったのにいないので自分がやるしかないがこの業界に入った。



※当内容は執筆者による見解を述べたものであり、記事や情報の内容に関しては十分な注意を払っておりますが、それらについての正確性や確実性、効果などを保証するものではありません。予めご了承ください。

※当記事の内容を含めた「就職または就職・活動」に関する質問事項がございましたら本サイトお問い合わせよりご連絡下さい。